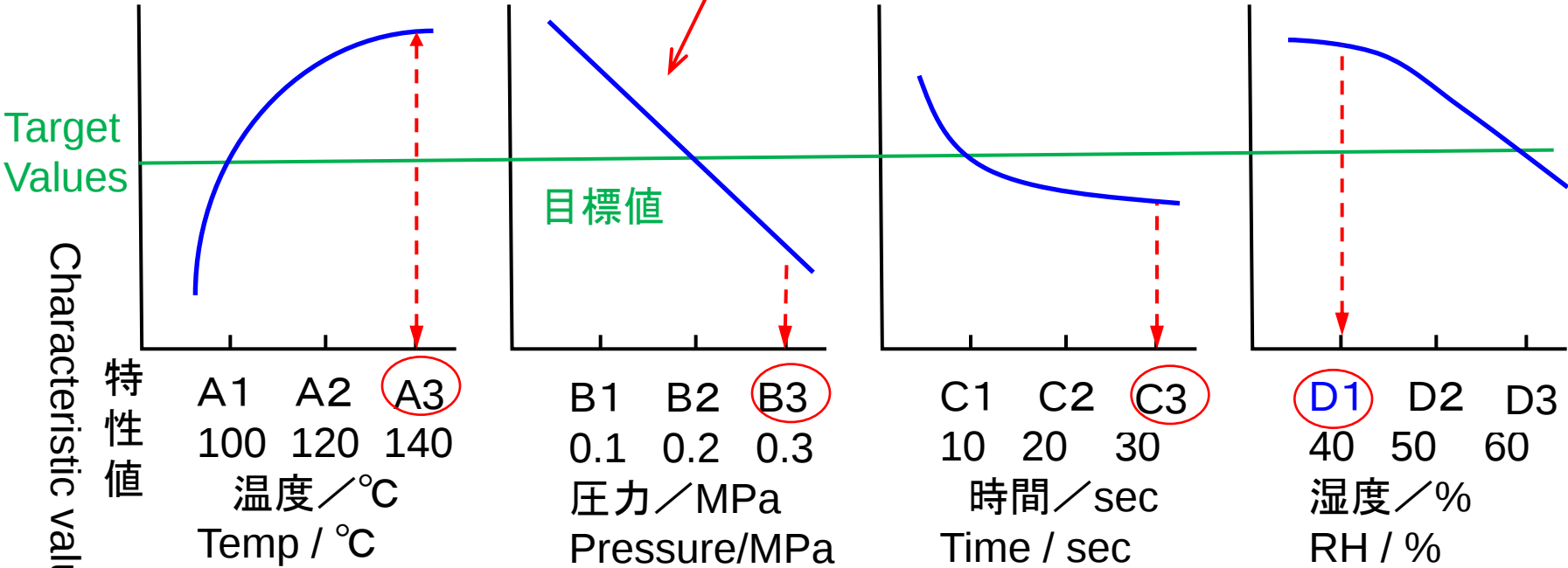
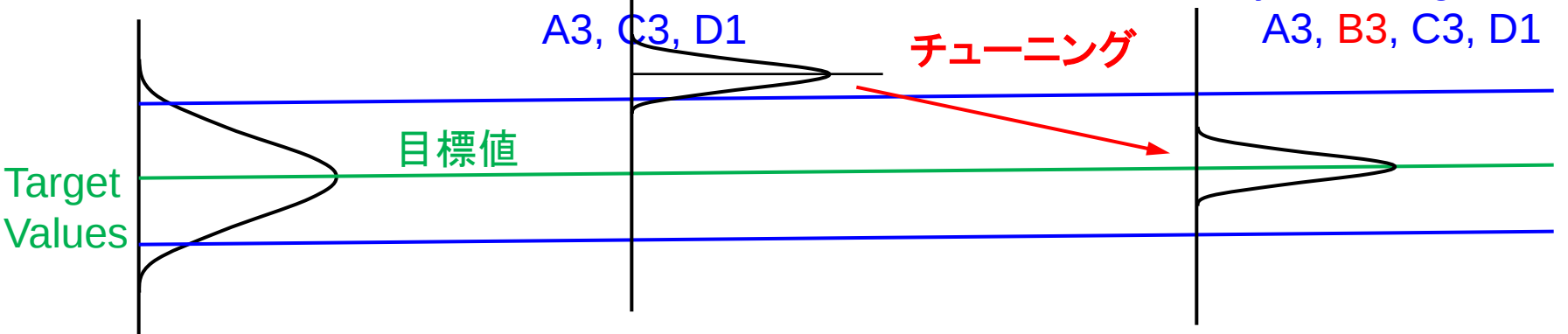


チューニングに用いるパラメータは何？

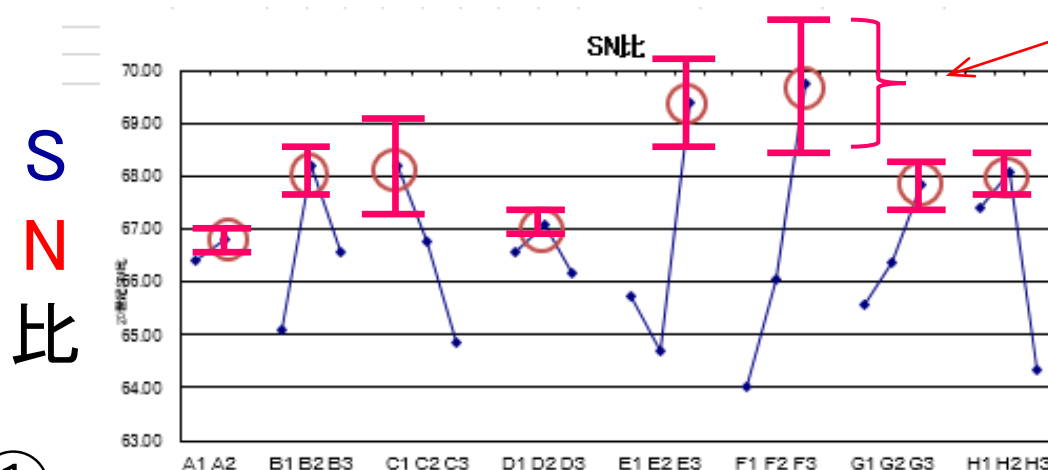


①バラツキの最小化
Variation Minimalization

②目標値への調整
Adjust to target values



②許容値の範囲を明らかにする（許容差設計）



①

		水準		
制御因子		1	2	3
A	角度(°)	0	2	10
B	幅(mm)	0	5	
C	ダイヤル上	1	5	8
D	ダイヤル下	1	5	8
E	高さ(mm)	50	52	54
F	幅(mm)	0	5	10
G	時間(sec)	0.5	1	3
H	スイッチ位置(mm)	5	22	45



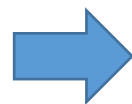
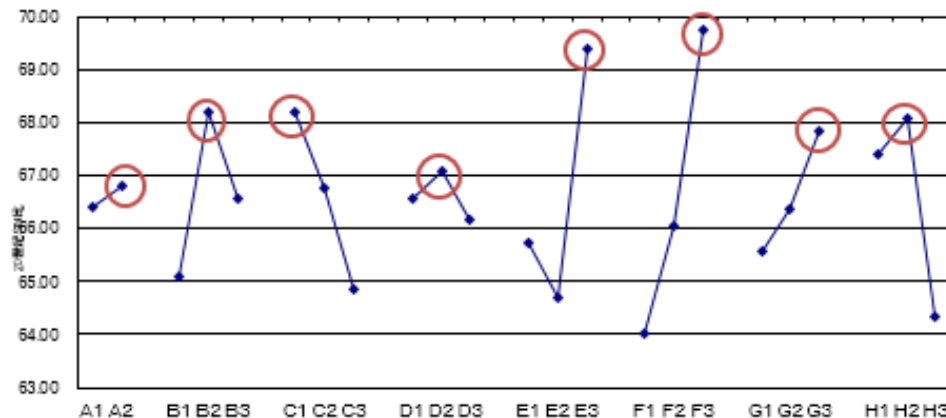
② ①で安定する領域の中心を**水準2**に入れて水準1～3を設定する
信号因子(圧力)を制御因子に入れる

		水準		
制御因子		1	2	3
A	角度(°)	0	2	
B	圧力(Mpa)	0.1	0.2	0.3
C	ダイヤル上	0	1	5
D	ダイヤル下	1	5	8
E	高さ(mm)	52	54	56
F	幅(mm)	5	10	15
G	時間(sec)	0.5	3	5
H	スイッチ位置(mm)	5	22	45

[illegible]

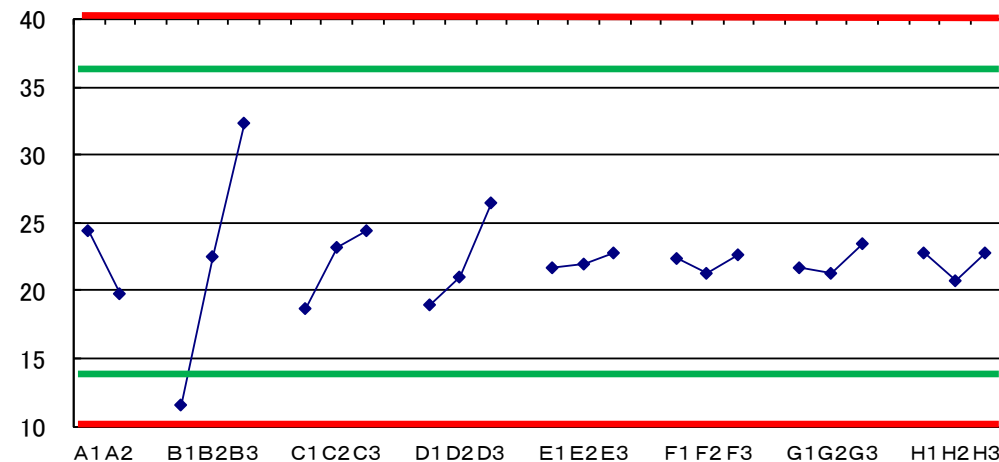
品質工学

S
N
比



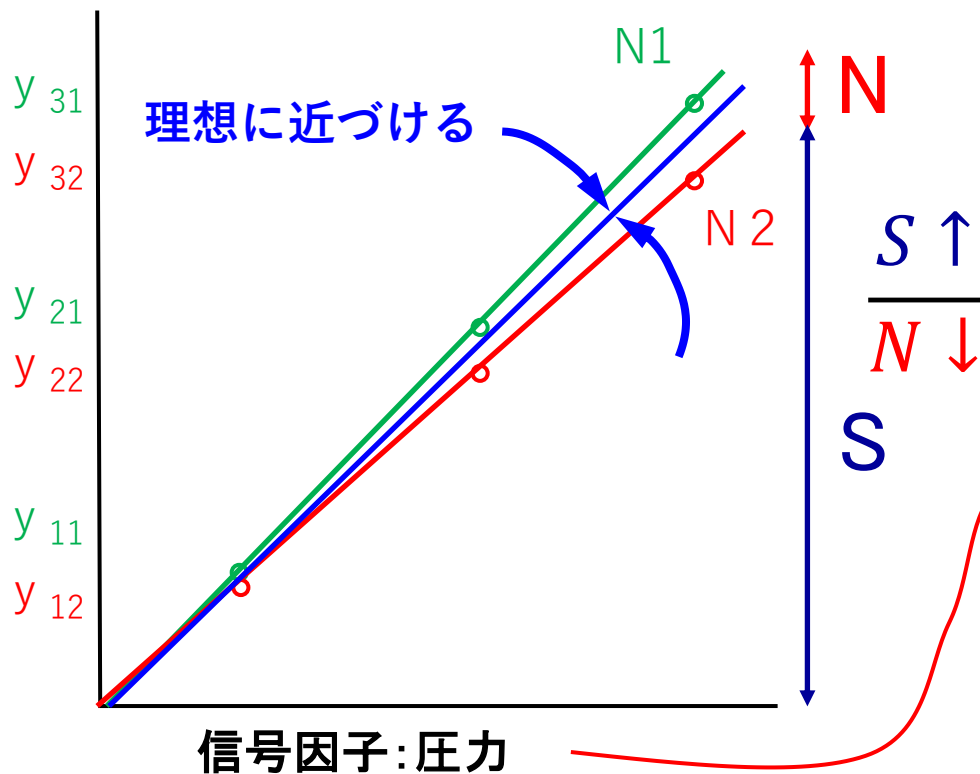
許容差設計

特性値
／
N



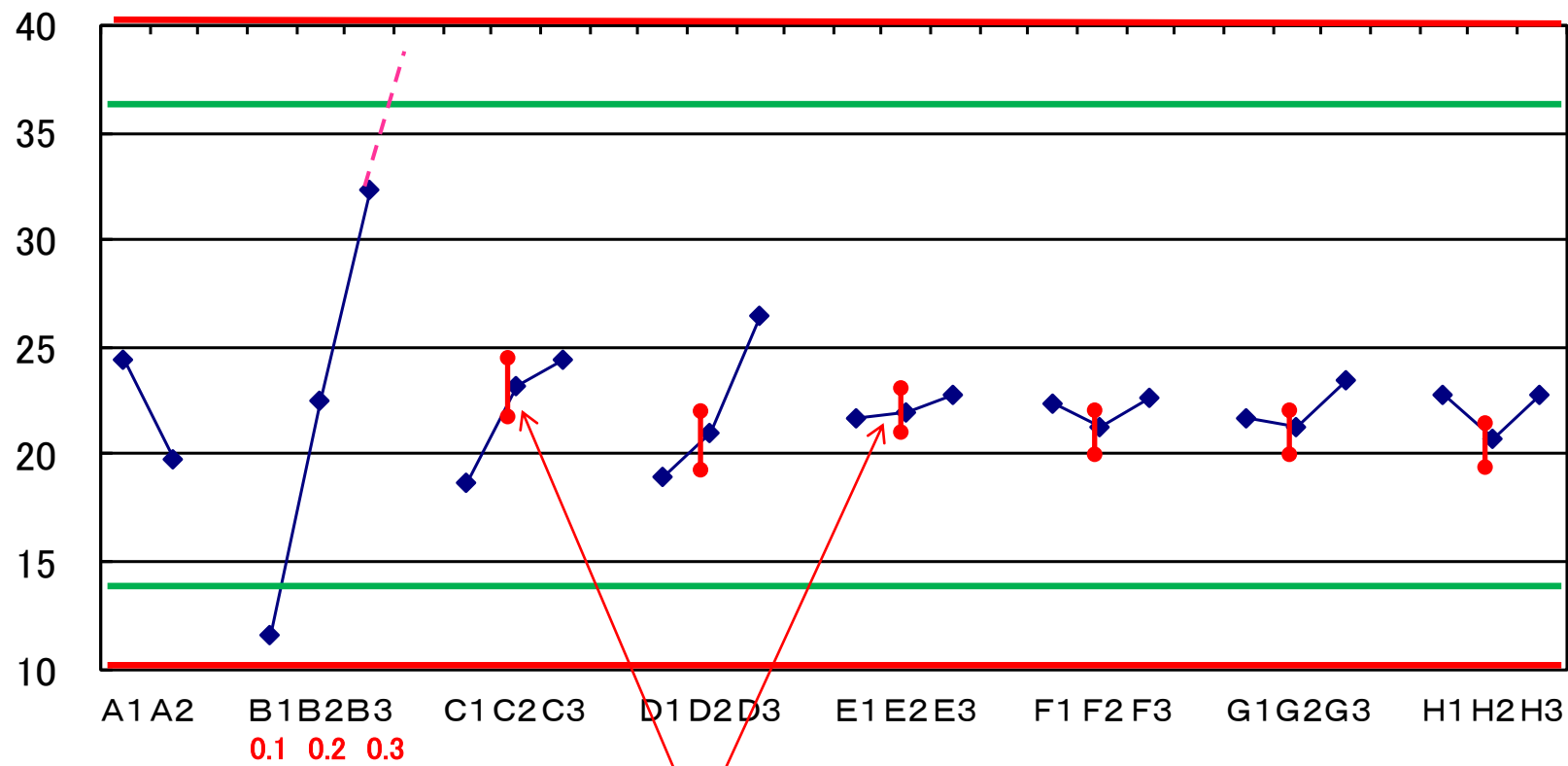
理想に近づく

特性値



制御因子	水準		
	1	2	3
A 角度(°)	0	2	3
B 圧力(Mpa)	0.1	0.2	0.3
C ダイヤル上	0	1	5
D ダイヤル下	1	5	8
E 高さ(mm)	52	54	56
F 幅(mm)	5	10	15
G 時間(sec)	0.5	3	5
H スイッチ位置(mm)	5	22	45

特性値
／
N



許容幅を設定する